

❖ 動詞のパターン

外国語を学ぶとき、私たちがもっとも意識し、かつ、もっとも注意を払うのは、動詞のパターンです。「動詞のパターン」とは、ここでは、**私たちに動詞を文中でどのように用いることができるかを伝えてくれる文法上の情報を意図しています。**

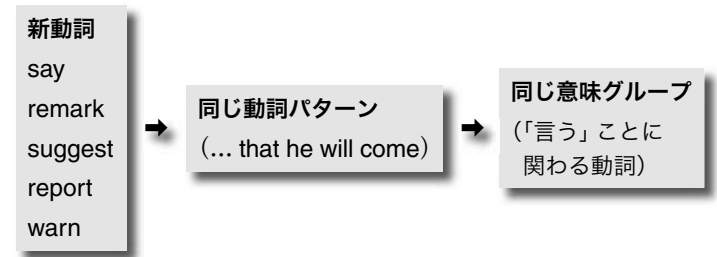
したがって、give something to someone や forget to do something、あるいは、want someone to do something のようなものは、すべて英語の動詞のパターンの一例ということになります。

これらのパターンを学んでいくにつれ、私たちは、同じ、あるいは、類似したパターンをもつ動詞は、関連した意味をもつ傾向があることに気づきます。例えば、say that something will happen というパターンを学び、その次に suggest that something will happen を学んだとしましょう。say と suggest は、それらが何かを「言う」ことに関わる動詞であるという点で意味がかなり似ており、しかも、最低限この用例に関しては、同じパターンをもっています。

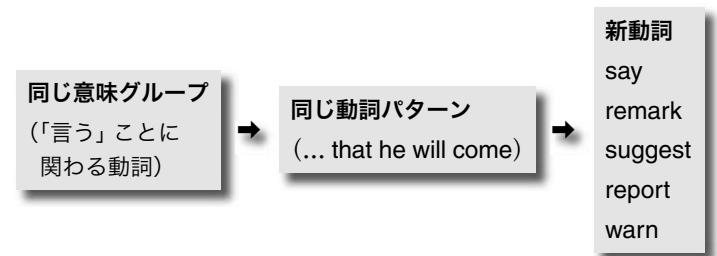
❖ 動詞が先か、意味グループが先か

言語を学ぶさい、私たちはふつう、新しい動詞を学んだら、まずその意味を覚え、次にそのパターンを覚えます。さらに、より多くの動詞を学ぶにつれて、同じパターンをもつ動詞が、だいたい似通ったグループに分類されることに気づきます。

このステップをわかりやすく図にすれば、次のようになるでしょう。



ここで私がみなさんにたずねたいのは、もし上の順番を次のように逆にしたら、英文法（そして、英語学習）は、どのようなものになるか、ということです。



言い換えれば、どうして私たちは、このように、まず意味グループから出発して、逆方向に進んで、動詞のパターンを学び、そして最後に、個々の動詞を覚えていくといった手順をとれないのでしょうか？

実は、このような「逆方向」から出発して言語を調べるという英文法の考え方がいくつか存在するのです。(45頁脚注参照)

このような文法を組み立てる最初のステップは、調べている特定の言語（の特定の領域）にいくつの意味グループがあるかを見つけ出すことになるでしょう。